

サポートの輪を広げませんか

認知症にやさしい町 田原本



認知症サポーターの印
オレンジリング



◀脳いきいき教室
受講生の皆さん

全国の認知症高齢者の数は2012年（平成24年）で462万人と推計されており、2025年（平成37年）には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれています。認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気です。

認知症についても正しく理解し、認知症になっても住み慣れた田原本町で暮らしていくために、地域の理解やサポートの輪を広げませんか。

☎ 町地域包括支援センター ☎ 34・2104 / 長寿介護課 ☎ 34・2052

認知症になった場合の希望する暮らし方のアンケートを行った結果、「医療・介護などのサポートを利用しながら、今までどおり自宅で生活していきたい」が44・2割、「できないことを自ら工夫して補いながら、今までどおり自宅で生活していきたい」が20・4割で、約65割の人が自宅での生活を望んでいます。

ただし、介護者が不安に感じる介護は「認知症状への対応」が27・7割と回答しています。

認知症になったから「何も判断ができない」「自宅で生活ができない」というわけではありません。本人や家族が認知症について正しく理解し、症状や進行に合わせて対応することが大切です。そして何より、地域の理解やサポートが必要です。



地域福祉権利擁護事業・ 成年後見制度

地域福祉権利擁護とは？

町社会福祉協議会が認知症や知的障がいなどが理由で判断能力が不十分な人が安心して生活ができるよう普段の金銭管理や書類管理などの支援をします。

利用料 1,000円（1回1時間）

問 町社会福祉協議会 ☎ 34-2118

成年後見制度とは？

認知症や加齢などで判断能力が不十分な人が契約や財産管理が難しい場合があります。また、契約内容を正しく理解できず、訪問販売や振り込み詐欺など悪質商法の被害に遭うおそれもあります。

このような判断能力の不十分な人を保護し、本人の権利を守る制度です。

※詳細については地域包括支援センターにお問い合わせください。

脳いきいき教室（認知症予防教室）



認知症の正しい理解を深め、認知症予防に効果的な取り組みを実際に体験し、暮らしの中で活かすことができるよう目指します。また、教室修了後は、地域包括支援センターが主催する認知症事業の担い手（サポーター）として活躍しています。

認知症予防講演会

認知症の早期発見・早期診断の普及啓発、認知症予防について学ぶ機会をつくります。

対象 認知症に関心のある町民

費用 無料

町では認知症施策推進総合戦略「新オレンジプラン」をもとに、認知症の早期発見・早期対応や住み慣れた自宅での生活を支える医療・介護サービスなどの連携や情報共有に力を入れています。

田原本町の支援制度

早期発見・早期治療が大切です

Interview

認知症を正しく理解し、 早期に相談を

認知症サポート医はチーム員と連携を図り、認知症の早期の段階から必要な医療や介護サービスにつなげる役割を担っています。

認知症の初期段階に現れる症状については、家族さんが対応しておられ、それから時間が経過し地域包括支援センターなどに相談するケースが多いようです。

認知症状を完全に治療することは



▲認知症初期集中支援チームの会議

認知症初期集中支援チーム

認知症サポート医を中心とした医療と介護の専門職による支援チームです。

認知症の疑いがある人やその家族を早期に訪問し医療や介護サービスにつなげます。

問 町地域包括支援センター

☎ 34-2104

できませんが、早期の段階で相談することで周囲の環境を整え、認知症を正しく理解することで、その人に適した対応や症状を緩和する薬の処方を受けることができます。

水野崇志さん
(認知症サポート医
/水野医院)



本人（認知症）と家族のつどい

認知症診断を受けた直後の人や認知症初期段階の人が早期につながり、前向きに暮らしていくための場所です。

本人のつどいは、仲間と出会い、本音で話し合い、自分たちのこれからの暮らしや暮らしやすい地域の在り方を一緒に話し合う場です。家族のつどいは、同じ介護をする家族が、介護の相談・悩みなどを語り、専門職からその対応の方法を学ぶなど介護の負担や不安の軽減を図ります。

本人や家族が出し合った思いを発信することで、認知症の人が暮らしやすい地域を一緒につくっていきます。

認知症が気になる人のための ほうっておかない講座

認知症になる前に「軽度認知障害（MCI）」といわれる、軽い記憶障害などがあっても一見普通に日常生活を送れる予備段階があることがわかってきました。

この時期に発見し「ほうっておかず」適切に対処することで、認知症への移行を防ぐことや、認知症の発症を先送りすることにつながるといわれます。

いつまでも健やかな生活を送るために、生活の工夫を学んでみませんか。

日時 平成**31**年**1**月**25**日(金)
午後1時30分～3時30分(受付=午後1時から)

参加無料

場所 町社会福祉協議会 大会議室

講師 横井賀津志さん

(森ノ宮医療大学教授/作業療法士)

対象 下記のセルフチェックリストに**2項目以上**あてはまる人、MCIの診断を受けている人

定員 30人程度

申込 町地域包括支援センターへ電話（☎34-2104）または来訪。

※申込時、簡単な聞き取りをさせていただきます。

認知症セルフチェックリスト

一つでも思い当たることがあった場合、認知症が心配されます。認知症についての知識を増やし、予防や対策に取り組みましょう。

- 最近の出来事が思い出せないことがある。
- 同じことを何度も話す、聞くとと言われる。
- 置き忘れなどが増え、物を探すことが増えている。
- 家事や作業に手間取るようになった。
- 好きだった趣味などへの興味がなくなってしまった。

田原本町高齢者見守り活動

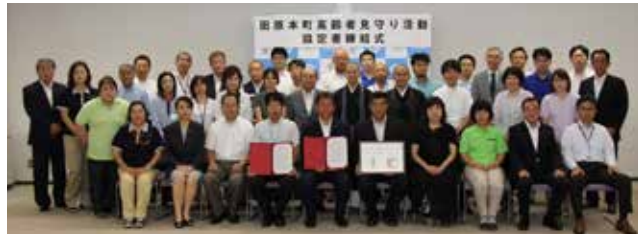
町と民間事業者や団体などが協定を結び、普段の業務や活動の中で高齢者などの様子がおかしい（新聞や郵便物がたまっている・外出中に道に迷った高齢者など）など異変を感じたときには、町や地域包括支援センター、警察、消防に連絡・相談をし、速やかに支援を行うものです。



協定を結んだ事業者は協力事業者ステッカーを配布しています。

協定を結んだ主な事業者

ならコープ、ヨシケイなら(株)、布亀(株) 他 53 事業者（協定書締結順）



若年性認知症サポートセンター

「若年性認知症」とは、65歳未満で発症する認知症を言います。多くの人は働きざかりや子育て中であるなど、現役世代のうちに発症するため、仕事を続けることや経済的な課題、家庭に与える影響といった高齢者の認知症とは異なる課題への支援が必要になります。

若年性認知症サポートセンターでは、専門の若年性認知症支援コーディネーターを配置し、若年性認知症の人やその家族からの相談に対し、助言や支援を行っています。

相談日時 月・水・木・金曜日・毎月第2土曜日（祝日・年末年始を除く）午前9時～午後5時

相談窓口 奈良県若年性認知症サポートセンター（一般社団法人SPS ラボ若年認知症サポートセンターきずなや）☎0742-81-3857

あんしん登録カード

氏名	フリガナ	カタカナ	漢字
住所	〒 番 番 番 番 番 番		
電話番号	代表	内線	携帯
連絡先	氏名	フリガナ	カタカナ
性別	年齢	職業	その他
緊急連絡先	氏名	フリガナ	カタカナ
緊急連絡先	電話番号	携帯	その他

外出中に道に迷うことがある高齢者などが行方不明になった場合、いち早く発見し保護できるよう、事前に情報（氏名・住所・連絡先・特徴・顔写真など）を登録することで警察や地域包括支援センターが情報を共有し緊急対応をスムーズに行うことができます。長寿介護課で登録できます。

※警察署への捜索依頼は捜索願の届出が必要です。

認知症サポーター

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、田原本町で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者にやさしい地域づくりに取り組んでいます。

認知症サポーター養成講座は、地域住民、町職員、見守り活動協定を結んだ事業者、金融機関や小学生から高校生など多くの人に受講いただいています。受講者には、認知症サ

ポーターの印としてオレンジリング（ブレスレット）をお渡ししています。
認知症キャラバンメイト

都道府県、市町村などの自治体と全国規模の企業・団体などと協働で認知症サポーター養成講座の講師役（キャラバン・メイト）を養成します。キャラバン・メイトは地域包括支援センターと協働し「認知症サポーター養成講座」を開催します。

認知症キャラバンメイトの声

「寄り添い、いっしょに」の優しい気持ちが広がってほしい



私は20年前に母と一緒に祖母の介護を経験しました。

物忘れをすることが増えて、最後は食事を飲み込むことができない祖母を医師や看護師の訪問を受けながら、最期は自宅で看取りました。

祖母の症状が進むたび、今までできていたことができなくなることにも母も私もストレスを感じて不安になることがありました。この経験は今の仕事や認知症キャラバンメイトでの活動の基礎になっています。

きっと、症状をお持ちのご本人自身も不安を感じていると思います。ご家族さんをはじめとする周囲の人が認知症について正しく理解していただきサポートすることで不安は和らぎます。

「認知症サポーター養成講座」を通じて認知症の正しい理解と「寄り添い、いっしょに」の優しい気持ちが田原本町に広がることを願い、認知症キャラバンメイトの活動をしています。

自分自身の認知症の予防につながり、気持ちが前向きに



会社を辞めて、自分の健康を考えたときに一番心配だったのが認知症でした。自分自身がわからずに、家族に迷惑がかかってしまう認知症にはなりたくないとの思いから町の認知症サポーター養成講座を受講しました。

キャラバンメイトとして認知症サポーターを養成する立場になり、地域包括支援センターでの教室や、介護施設での講演などを行っています。認知症サポーター養成講座の受講生と話をすることで、私自身の認知症の予防につながり、自分自身が前向きに何かに取り組もうという気持ちになってきています。一日明るく元気に過ごすきっかけにもなっています。

認知症を正しく理解していただく人を増やすということが、認知症の患者さんや家族を救います。認知症サポーターとして学んだことを、地域包括支援センターとも連携して1人でも多くの人に伝えていきたいです。

認知症サポーター養成講座 受講生の声



いずれ私も認知症になるかもわからないので、元気なうちに少しでも周りの人の役に立つことがしたいと思い参加しました。

サポーターとして買い物に行った時や、電車に乗った時など困っている人がいたら声かけから始めてみようと思います。(木下智世さん)



家族が認知症になってしまっても、ゆっくり、優しく、大きな声で声をかけてあげたいです。
小林愛菜さん（小学4年）



認知症の人に接する時は優しく、ゆっくりと話しかけて、安心してもらえるように意識していきたいです。
東口詩音さん（高校2年）

RUN^{とも}伴



「RUN^{とも}伴」とは、認知症の人や家族、支援者、地域の人が少しずつリレーをしながら一本のタスキをつないでいく全国的なイベントです。

地域の人と認知症の人が出会うことにより、認知症になっても安心して暮らせる地域をつくるはじめての一步になります。

今年は10月21日に開催し、住民の人や認知症キャラバンメイト、認知症サポーター、介護予防リーダー、介護事業者、社会福祉協議会などが参加しました。

みんなが気軽に集える カフェ・教室

おとなの学校体験教室



「学校形式」を取り入れた認知症予防・介護予防のプログラムです。学校のように時間割に沿って、教科書を使い授業を受けます。

時間 午前または午後いずれかの半日
(詳細はお問い合わせください)

場所 小規模多機能ホームつどい (保津 56-7)

対象 町民の方であればどなたでも

参加費 1回 300円 (教科書代など)

※おとなの学校の「先生ボランティア」も募集しています。

☎ 小規模多機能ホームつどい (大泊) ☎ 34-1230

町内には認知症の人やその疑いのある人だけでなく、その家族や地域の人、医療・介護の専門職の人なども気軽に集まり、認知症予防教室を開催する場所や、交流・情報交換をすることができるカフェがあります。

交流以外にも、認知症の専門職に悩みごとを相談することができます。

たわらもとココロカフェ (認知症予防カフェ)



介護や認知症に関する相談、高齢者や地域の皆さんとの交流の場です。地域のボランティアがスタッフとして参加しています。歌や音楽、体操でココロもカラダもリフレッシュしましょう。

日時 毎月第3日曜日午後1時30分～3時

場所 田原本園 喫茶スペース (味間 523-1)

参加費 100円 (ドリンク代など)

☎ 社会福祉法人いわれ会 特別養護老人ホーム田原本園 ☎ 33-6066

認知症地域支援推進員にご相談ください 町地域包括支援センター (町役場内) ☎ 34-2104



地域包括支援センターに寄せられた認知症に関する相談などから、認知症状に応じて必要な医療と介護サービス機関などと連携を図り、認知症の本人とその家族を対象とした相談業務などを行います。

認知症を正しく理解していただくための講演会や教室などの開催・企画も行います。現在、認知症地域支援推進員は地域包括支援センターに3人配置をしています。

認知症に関するご質問がありましたら、お気軽にご連絡・ご相談ください。